

はじめに

兵庫県立健康環境科学研究所業務年報3号をお届けします。

当3号から、従来の研究報告編の論文集を独立させて、新たに「紀要」として発行することにし、業務年報は事業実績報告を中心に編集して分冊として発行することといたしました。

当研究センターも、旧衛生研究所と旧公害研究所の再編統合後3年目を迎え、健康・環境行政を一体的に科学的、技術的に支援する中核試験研究機関として、調査研究、試験分析や普及指導業務等について充実に向けた取り組みを進めているところです。平成15年度には、外部有識者からなる「健康環境科学研究所のあり方検討委員会」が設置され、将来担うべき機能や具体的な業務の展開方策等について検討が行われ、研究センターのミッションや目標が示されましたが、当研究センターではそれらを受けて、感染症対策、食品や飲料水の安全対策、地域環境汚染対策や地球規模の環境問題など県民生活の安全・安心をめざして、具体的な役割を堅持しながら全職員が調査研究や試験分析、普及啓発に取り組んでおります。

昨今の鳥インフルエンザの発生、環境汚染物質の不法投棄など、迅速な対応がせまられる課題が日々山積しており、引き続き健康・環境危機管理対応能力の充実強化、研究マネジメント機能の強化、試験分析能力の向上や、研究成果の実用化を目指してまいりたいと考えております。

この報告書は、平成15年度の業務実績を中心に同年度の研究発表内容等を取りまとめました。業務の参考に願い、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

今後も、行政との連携を図りながら県民生活の安全と安心を支える中核試験研究機関として努力してまいりたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご支援をお願いいたします。

平成17年3月

兵庫県立健康環境科学研究所

所長 吉村幸男